

【山陽小野田市教育委員会】

校務 DX 計画

令和5年度実施の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の確定値では、本市小中学校の平均得点は、計34項目1020点満点に対して345.4点であった。自己点検の結果を踏まえ、校務のデジタル化に向けて取り組むべき項目や学校間の取組状況の差を解消すること等の課題に対して、以下の5つの重点項目を推進していく。

1. クラウドサービスの活用促進

市内小中学校において、教職員、児童生徒、保護者、教育委員会間で、配付物の削減によるコストカットや、情報伝達の即時性の向上や・効率化を目的として、共有ドライブ及びチャット、サイト等のクラウドを活用した情報共有を進めている。今後は、教職員に配布している Google アカウントにメール機能を追加することで、さらに情報通信技術を活用した校務の効率化・最適化を進めていく。

2. 校務 DX 推進体制の構築

学校における ICT 活用のサポート体制の充実及び教職員の ICT の活用能力の向上のため、ICT 支援員の継続配置や Google for Education と連携した研修を実施していく。また、生成 AI 活用のための活用環境整備や情報提供を進める。

※1 令和5年度より、Google for Education とパートナー自治体契約の提携

3. FAX・押印の見直し

学校間や教育委員会と学校との連絡や通知は、引き続き、原則、メールや共有フォルダを利用して行い、押印についても原則廃止に取り組む。

4. 手入力作業の削減

校務支援システムへの名簿情報の入力については、令和7年度より市教委から学校をデータで提供することで合理化を図る。

5. ペーパーレス化の推進

会議資料等のデジタル化によりペーパーレスを推進するとともに、デジタル教材の活用を促進することで、紙ベースの教材の利用削減を図る。また、メールによる配信及びクラウド上のドライブの活用により、保護者への紙資料の削減を促進する。